

令和元年度 岡山・鳥取両県知事会議

日 時 令和元年10月10日（木）

15：50～16：50

場 所 ザ・シロヤマテラス津山別邸 鶴山

○片山部長 ただいまから、岡山・鳥取両県知事会議を開会いたします。私は岡山県総合政策局長の片山でございます。

まず初めに、開催県であります岡山県の伊原木知事からご挨拶申し上げます。

○伊原木知事 ありがとうございます。岡山県の伊原木でございます。本日は、岡山鳥取両県知事会議を開催いたしましたところ、平井知事におかれましては、お忙しい中お越しいただきまして誠にありがとうございます。また、去年の水害の時もそうでしたし、9月3日の新見市の水害に当たりましても、すぐ鳥取県の職員の皆様を派遣していただきまして、お助けいただきまして本当にありがとうございました。

また昨年の知事会議は、水木しげるロードを拝見させていただき、私が家族で行ったときよりもさらにまた、グレードアップ、バージョンアップしている姿を見て、これを見せていただいたら、今年はちょっと気合い入れて（視察先を）選ばなきゃなっていうことで、ちょっとここから距離があるんですけども、奥津温泉にご一緒させていただいて、美作三湯芸術温度を見学していただいたところでございます。3年前に第1回目をやって10万5000人にお越しいただいた、大変ヒットした企画をもう一度やってみたということなんです。ご案内のとおり岡山県にとって、新幹線も空港も県南にありますので、県南にお越しになる方々をいかにこの県北まで回遊してもらおうか。昔のデパート用語で地下に呼び込んでそれで回遊してもらおうっていうのを「噴水効果」と言いまして、まず一番上の催場に呼んで降りてもらおうのを「シャワー効果」と言っていたんです。どこを原点にしてぐっと持っていかってっていうことでいうと、本当に「噴水効果」を狙っておりまして、岡山芸術交流、それから瀬戸芸でお越しになられる方に、それだけじゃなくていかにこの県北も含めた上の方にぶあっと持ち上がっていただきたい（と思い、企画したわけです）。当然大山とか日本海まで行ったって別に構わないわけでありまして、そういった取組をご覧いただけて本当に光栄に思ったところでございます。

もういろんなことで、今両県でやっていく方がいい問題が山積をしております。今日

はそういったことについていろいろといい取組ができるんじゃないかと期待をいたしております。どうぞよろしく願いいたします。

○片山局長 続きまして、鳥取県の平井知事からご挨拶をお願いいたします。

○平井知事 皆様こんにちは。本日は伊原木知事また片山局長初め岡山県の皆様に大変に手厚いご準備をしていただきまして、この私どもの両県知事会議を主催していただきしたこと、本当に感謝を申し上げたいと思います。

また、昨年は大変な豪雨災害、さらには先般の新見の水害、心からお見舞いを申し上げたいと思います。私ども隣県でございまして、考えていまして、津山の消防士さんなど、私ども鳥取県中部地震のときにも応援に来ていただいたりしたわけでございまして、ぜひこれからも、災害時お互い助け合っていく。そういう、今日いい話し合いができればなというふうに思います。今日もちょうど台風19号がやってきているところでございまして、朝方私どもも、県の方で連絡会議をしてこちらの方に向かったところではありますが、今回少し東海・関東方面に行くようではありますけども、大分北風が吹いてくるようでありまして、風の心配やらあるいは、それとあわせて、特に日本海側は雨が降る可能性があるというようなこともございまして、そんなような災害がいつやってくるともわかりません。こうして両県で契りを結ぶことが災害に強い地域づくりを、ここ中国地方から一つのモデルとして、作っていけるのではないかなというふうに考えたところでございます。

今日は奥津温泉の方にご案内をいただきました。あの清流のせせらぎ。そういう中で、カエル、河鹿も鳴く、そんなふるさとの風情というものが今も豊かに残されているところでもあります。今日は太田三郎先生あるいは金重先生の作品なども拝見させていただきましたが、温泉地の一つ一つのお宿にそれぞれ趣のある芸術作品があるというのは、これはもう伊原木知事の大英断だったと思います。こうやって温泉地が賑わうこと、そしてその芸術文化のそういう潤いがこうした県内各地に広がっている。さすが瀬戸芸の本場だというふうに本当に感激をさせていただきました。

私自身も実は奥津は去年ですかね、家内と思い立って一晩空いてた日がありまして、だいたいせつかなもんですから、鳥取では「いらち」と言いますけれども、その日空いている宿探したら米屋倶楽部しかなかったんですけども、そこに泊ってきてですね、朝は洗濯ダンスのボリュームの高い放送が町中に響き渡るということで、大変楽しい、そんな

温泉の思い出があったわけでありませぬ。

日本を今一度せんたくいたし申候事という坂本竜馬ではありませんけれども、そんな奥津の温泉の洗濯にちなんでですね、今日は日本を一新しようと、そんな気概でやっぴいこうかなというふうに思います。

ここ津山は非常に鳥取県の経済圏と近うございまして、マルイさんを初めとして、津山の資本は、山陰の方に大分入ってきていただいています。また物流の中心地でもございまして、昔、ここに越前から分かれた、松平がこうして津山藩を築かれて一つの中心地を作られたその気概が今も生きています。そんな中、私達はまだまだ不透明な状況が目の前にあるのかなと思います。津山藩出身の平沼騏一郎が言っていた教科書にでてる名言でありますけれども、「欧州の天地は不可解（複雑怪奇）である」と。そういうことを独ソ不可侵条約のときに述べたっていうのが印象に残ってますけども、まさにそんな今の国際情勢、それから天変地異のことをいろいろとあろうかと思ひます。ですからこそ、私達は、両県手を取り合ひまして、しっかりと両県のチームワークによって新しい日本を開いていければというふうに思ひます。

ぜひまた伊原木知事もご指導いただきまして、すばらしい会議にし、今日がその新しい時代、令和の時代を開くスタートになればと願っております。本当にありがとうございました。

○片山局長 ありがとうございます。本日は、16時50分の会議終了を予定しております。

意見交換に入ります前にただいま両知事のお手元に飲み物とお菓子をお配りしております。ご紹介をさせていただきます。飲み物は蒜山地域に古くから自生している山ブドウを使用しました、「風のシルフ」という名のノンアルコールのスパークリングワインでございます。甘すぎずすっきりした味わいが特徴でございます。

お菓子は、津山市内の複数のお菓子屋さんが協力して開発した統一ブランド「津山ロール」のうち抹茶味をご用意いたしました。なお、この抹茶味のケーキを作っていただきました、「くらや」さんでございますが、津山出身で日本を代表するロックバンド「B'z」の稲葉浩志さんのお兄さんが経営されているお菓子屋さんとしても知られております。よろしければ今一口、召し上がっていただければと思ひます。

○伊原木知事 稲葉さんが最近本当に津山を応援していただけるようになって、もう津山

の皆さんも本当にモチベーションがすごく上がってるところでありまして。やっぱり地元出身の方が活躍してくれると渋野日向子選手でも、前田穂南選手でもいやそれはもう本当にうれしいですよ、盛り上がります。

○平井知事 本当に渋野選手もね、もう拍手喝采されて嬉しかったですし、この「くらや」さんの抹茶ですかね。抹茶ロールにちょっとお餅が入ってですね。ちょっと食感も面白くて「餅」バージョンが上がるね。

○伊原木知事 ははは。最初からもうドッカンドッカン、はい。いやいや素晴らしいと思います。

○片山局長 それでは、意見交換に入らせていただきたいと存じます。これ以降の進行につきましては伊原木知事をお願いいたします。

#### ①広域的な防災・減災対策の推進について

○伊原木知事 はい。それではまず記憶も生々しい昨年の水害に関連してということで最初の項目、防災減災対策についてでございます。まず私の方から発言をさせていただきます。

（鳥取県側を見て）是非ごゆっくり、「津山ロール」を食べながら聞いていただければと思います。昨年の両県知事会議でも話題となりました、広域物資物流体制につきましては、中国地方知事会議の広域防災部会のワーキンググループで今議論しているところがありますけれども、今年度本県では、南海トラフ地震により、広域物資拠点施設が被災した場合や、国からのプッシュ型支援物資が空輸された場合などに備え、岡山桃太郎空港内の貨物ターミナルの一部を防災航空物資センターとして、活用できるようにしたところがございます。

8月には中国各県の関係機関の皆さんにも、施設内部をご視察いただき、今後、各県が被災した場合の代替物資拠点として活用できるよう具体的な手続きについて検討を始めたところです。

また、本県では、県北の新たな物資拠点として活用可能な施設を今調査しているところであり、5月には鳥取県や地元市町村とともに、民間企業の物流倉庫を見学するなど連

携して今後の活用の可能性について検討しています。

鳥取県さんとは、防災部門での人事交流がもうおかげ様で6年目を迎えております。これ他の県でごめんねって断られたところ、平井知事に「いやでもこれ確かにそういうところあるからやってみよう」というふうに引き受けいただいた。これが昨年の水害でも本当に役に立ったってということで、もういくら感謝してもしきれないわけでありましてけれども、現在、その交流で本県に来ていただいている職員の方には、こうした支援物資物流業務を担当していただいているところがございます。いざというときも円滑に対応できると期待をいたしております。引き続き、人事交流や訓練を通じて顔の見える関係作りを進め、両県の連携をより一層深めてまいりたいと存じますので、どうぞよろしく願いいたします。

○平井知事 ありがとうございます。素晴らしいご提案を、そしてリーダーシップに感謝を申し上げたいと思います。

昨年も大変な災害のときにやっぱり物流、この支援物資をどう捌いていくのか。特にプッシュ型支援が来たときに、私ども被災地の経験がありますけれども、被災地で捌くのかえって人がいたりすると、そういう意味で、これはもう伊原木知事の、経営感覚に基づくご発言だと思いますが、これまでも、中国5県の知事会議でもですね、この点のご意見をいただいて、例えば物流会社だとか、そういう民間の活力も活用しながら、一つの県にとどまらずに、こうした支援物資の流れを作っていこうとこういご提案があり、私も大賛成であります。

今お話がございました岡山桃太郎空港の中にそうした集積の拠点もあるということでもありますので、ぜひまた5県の知事会もありますけれども、私どもも一度個別にも拝見させていただいて、ぜひ私どももできれば活用させていただくことをまた検討させていただければありがたいなと思います。

実は今5県それぞれにやってると思うんですが私どもも、やはり元々は一つのところに強制的に備蓄物資を集積しようと思ったんですけど、それが熊本地震だとか、そうした反省を踏まえますと、分散して、民間を活用した方がいいだろうと、私ども今そういうふうに舵を切ってるところです。そうやって、今県内の状況を確認しますとトラックターミナルで11、さらに民間の倉庫で8つ、また、JAの選果場というのは、そこに果物やら集めてですね、それを箱詰めして出していくというところで、そこにはトラックが集まるわけで

す。

ですからトラックターミナルと実は作りが一緒でありまして、こうしたところも災害に使えるんじゃないかというのが24ヶ所ございました。それを機動的にですね、使いながらいくということで、今、計画も作り始めたところです。

また、この中国道を通じて山陰には物資が入ってきます。その中国道の集積拠点である津山の会社さんにも協力をお願いしておりまして、それで今津山からこちらの山陰側の方に物資を入れるというそういうルート作りも今検討しているところです。

ただ、災害の経過形態がどうなるかわからないわけですね。例えば中国5県がみんなこないだの水害により面的にやられてしまうというようなことになると、やはり岡山桃太郎空港のようなところで、1ヶ所で集めてそこに国からのプッシュ支援なんか来て、それをそこから民間のトラック業者さんだとか、そうした活力もいただきながら、分散させていくという。その中で我々で言う、選果場であるだとか、そうした集積拠点に持っていくということがあるんじゃないかなと思います。

また私ども実は美保という飛行場があってこれが別名米子鬼太郎空港と言ってるんですが、航空自衛隊の基地になっております。ここは輸送部隊、自衛隊のですね輸送部隊の基地になってまして、災害の形態によってはこういうところが活用される可能性もあります。

ただいずれにいたしましてもそういう岡山県がですね、そうした桃太郎空港の方でそうした拠点を作られたことの意義は大変に大きいと思いますので、ぜひまたこれからですね良いネットワークを作らせていただければと思います。

また、今年度、今度また山口で集まって話をしながら、今年度ぐらいでちょっとですね今後の方向性をまとめにかかれればありがたいなと思います。

○伊原木知事 大変いい整理していただきまして、集中型と分散型はどちらが必ず良いってということではありません。それぞれにメリット、デメリットがあるわけですが、あと、全部公でやるのか、民間の施設を使わせていただくのが、民間の施設はもともとそれぞれの会社の仕事をするためのものですから、我々のために常に空けておいていただくってことは、基本的にはお願いができないわけです。そのいろいろな可能性をきちんと持っておく、オプションを広げておく、もしくはこの施設が向いている、どういうときには使えるってことがあらかじめ分かっているってというのは、すごく大事なことだと思

っています。

実際過去の水害、災害でパレットが置けない、フォークリフトが入れないところを集積場に使用しようとした例も実際もありました。それもちょっと後から考えるとありえないような選択ですけれども、そういった、大失敗が次にないように、せいぜいちっちゃい失敗ぐらいで取り戻せる失敗で抑えるようにこれも準備をしていきたいと思っておりますよろしく願いいたします。

○平井知事 ありがとうございます。ぜひこれ我々中国地方でも、岡山の方でリーダーシップとっていただいていますので、しっかりとフォローさせていただきたいと思っておりますよろしく願い申し上げます。

## ②豚コレラ対策の強化について

○伊原木知事 天災に対する備えということでありましたけれども、次の項目、天災じゃなくて、もしかして人災かもしれないと言われている、豚コレラ対策の強化ということでございます。これは平井知事の方からよろしく願いいたします。

○平井知事 これは富山の全国知事会の際に伊原木知事ともいろいろとご相談をさせていただき、中国地方をみんなで何とかこれを防ごうねという話をお互いにしたところでございました。あの後と大分状況が動いてまして、8県にまたがるようなことになり、またイノシシの範囲も広がってます。イノシシで言えば滋賀県がもうすでに入り込んだ地域ということになっていますし、先般も群馬でイノシシが見つかりましたが、正直どこにいるかもわからないのかもしれないかもしれません。イノシシは日に50キロも移動することもあるというふうに言いますので。そうすると県境関係なくですね、入ってくる可能性があるという。

そういう意味で知事会でも議論をしましたがけれども、豚舎に侵入されないようにそこは最後の砦でありますので、そうしっかりやろうということ、それぞれの各県でやりながらも、ただ、万が一のときを考えた対策、それやっていかなければなりません。そういう意味では岡山県が経験した新型インフルエンザのそうした経験は生きるわけでございます、ぜひ、これも連携してやっていければなと思います。

そういう中で今急浮上しているのが、イノシシが媒介するということでもありますので、イノシシに対する捕獲圧、捕獲の数量を増やす。これを展開していく必要があるのではな

いかと思います。

そういう意味で、例えばですねこの時期に、岡山・鳥取両県が協力してイノシシの駆逐に当たるといような共同作業のですね、そうした期間の設定であるだとか、あるいはお互いの情報共有であるだとか、そうしたことをさらに強化してはどうかと思います。最近鹿などで、両県の連携も深まっているところではありますが、豚コレラという大事な対象ができてしまいました。これに立ち向かうためにも、そういうイノシシ対策での改めての連携をですねぜひお願いを申し上げたいと思います。

○伊原木知事 どうもありがとうございました。そもそもこれは前回の全国知事会のときに、対策を全国知事会として立てたわけですけれども、それが甘いと、現実を反映していないということで声を上げられたのが平井知事でいらっしやいまして、それを反映して、中国5県では、残念ながらあのときには豚コレラについて実質的な討議をしないまま、時間が足りないということで、すぐ次のテーマに移ってしまったっていう、我々からすると残念なことがありまして、中国5県でもう一度、改めて何が起きてるのか、何が必要なかっていうことを相談した上で、国に対して要望をしたと。これも一言で言えば、ワクチンがやはり必要だということでもあります。国のやる対策をとっているところで実際に豚コレラが発生をしているっていうのであれば、これは意味のある対策になっていないというそういう非常にわかりやすいロジックでありましたけれども、ようやく国が現実的な対応を取ってくれるようになった、大変評価をいたしておりまして、その動きに岡山県としても当然協力をしていく。

また、大変いい提案をいただきました。これまで鹿の時も言っていましたけれども、マンションやアパートで一軒だけ、バルサン焚いても、向こうにまた戻ってくるだけということ。それはもう一斉にやるのが一番ですからね。時期を決めて協力をして、はい。対応していきたいと思っております。どうもありがとうございます。

### ③とっとり・おかやま新橋館における連携について

○伊原木知事 それでは、次の項目、これも本当に鳥取県さんにお世話になっております。とっとり・おかやま新橋館における連携ということでございます。私の方からお話をさせていただきます。

もう5年になるんですね。早いものでありまして、毎年約50万人のご来館をいただ

き、本日、めでたく250万人を突破したんだそうですね。ちょうど（この日に）合わせて、本当に素晴らしいと思います。多くの首都圏のお客さまに両県の製品の魅力を実感いただいているところでございます。今年の4月にはリニューアルを行いまして、物販飲食店舗の魅力アップに加え、新たに移住しごと相談コーナー、それから、コワーキングスペースを設置いたしました。このリニューアルによって新たに開設した移住しごと相談コーナーについて、これも平井知事のご提案で作ったわけでありましてけれども、オープン以来約半年を迎え、その間、利便性のよい立地で、相談者が立ち寄りやすい条件が揃っていることで、多くの相談者が来訪してくださっておりまして、その優位性をもっともっと生かすために積極的な広報活動を展開するなど、両県連携して今後も取り組んでいきたいと考えているところでございます。これからも、首都圏における総合的な情報発信拠点として、鳥取県と連携して県産品の販路拡大、開拓それから情報発信とともに、移住しごと相談コーナーにおける、東京圏からのIJUターン就職の促進、それから首都圏での県内企業の魅力発信についての取組も、もう盛りだくさんですけれども、もっと進めていきたいと思っております。本当にありがとうございます。

○平井知事 とっとり・おかやま新橋館、これを共同で設置をするという画期的なことになりましたのも、本当にあの伊原木知事が就任されたその圧倒的な力でございまして、そのことで大分これは前に進みましたし、実は新橋で物件を探していたときに、私はここがいいんじゃないかなあというふうに言っていたところ、岡山県の伊原木知事もそこがいいというふうに言っているという話が聞こえてきて、天満屋さんが選ぶところだったら間違いないと、いっそ一緒にやれるということでちょっと呼びかけてはどうかと申し上げたら、本当に快く伊原木知事の方ですね、プロジェクト実現してくださいまして、様々アドバイスもいただき、さっきの噴水効果じゃないですけども、左回りに回るのがいいとかです。いろいろな定石があるそうでございまして、本当にいい店作りなり、なんと250万でございまして。もう250万人、鳥取県では考えられないですね。人口の5倍ぐらいでございまして。それほどの方が新橋にきているということでありまして、非常に我々としても夢のようなことになってまいりました。

先ほどお話がございましたけれども、単なる物産だけではなくて、観光だとかあるいはビジネスに使おうと、今ハローワークも岡山県の方でも開設をしていただいて、岡山と鳥取で輪番でやることによって、毎日土日も開けておくハローワークということになる。

こういうちょっと珍しいことですね、新橋の方ではできるようになりまして、結構ご利用の方も順調に増えていると伺っております。またコワーキングスペースもそうですけれども、まだ十分PRも行き届いていないということもあるのかもしれませんが。もっとこれから、これもですねてこ入れをして、いろいろPDCAサイクルを回して、また経営感覚でアドバイスをいただきながら、両県で協力してビジネスの活性化を図ればなと思っております。

それとあともう一つですね、移住は岡山県さんが先進県と言われているところであるわけであります。私ども今及ばずながらですね、山陰側の方を目指そうという方が鳥取とか島根にも入り始めています。今鳥取市もですね、住みたい田舎っていうランキングがありまして、その住みたい田舎で、実は1位に選んでいただくですね。これ我々もびっくりしたんですけども。私なんか非常に悩ましいなと思っております。県庁所在地で初めてだったそうですね。県庁所在地で田舎というか。それは多分、鳥取ぐらいなのかなと思いがらですね、思ったわけでありましたが、そんなわけで、これもコラボしていくと、要はそれぞれの個性に応じて岡山・鳥取それぞれ選んでいただけるってことかなと思っておりますのでぜひ強化もしていただけるとありがたいと思います。

また今移住未満で観光以上の関係人口という概念が出来始めてます。今鳥取もそうした領域を開拓しようと、関係人口作りを始めているところでありまして、これも岡山県さんの得意分野だと思いますので、新橋も拠点として活用できないかなと思っておりますのでご検討いただければと思います。

○伊原木知事 ありがとうございます。関係人口っていうお話、それを鳥取県さんが頑張られてるっていうお話を聞いて、さすがだなあというふうに思って思い出したのが、岡山県の成功例って言われてる西粟倉村。あそこは本当にどんどんいろんな人が県外から来てくれて、それも若くて意欲的な人がどんどん入ってくださる。で、そういった方のいろんな体験談とか、お話いろいろありますけれども、そのうちの 하나가、我々（西粟倉村）は途中から言うことを変えたんだと。どう変えたかっていうと「移住しなくていいんです。定住しなくていいんです」と。「ちょっと興味持って、数年でも数ヶ月でも居てくれればいいんです。」。その内何割かの人が、「結果的にはずっと住んでるね。そういえば。」って言ったらもうそれで儲けもの。以前は何か来てくれた時は大歓迎して、3年経って出て行くときに裏切り者扱いみたいなことになると、そういうのを見てると怖いじゃないですか。もし何かのことで出て行くことになったら、石を持って追われるのか、みたいなこ

とですよ。全然来ないっていうのと、3ヶ月でも、3年でも居てくれるのとは、もうどう見たって（後者の方が）ありがたいわけで、もしくは年に1回必ず遊びに来てくれるって、どう見たってありがたいわけであって、0か100かっていうんじゃないかって、それぞれの人、何かちょうどいい距離とか関わり方ってあるわけであって、本当にお好きなぐらいの距離感、頻度でお付き合いいただければいいですよという懐の深さは、必ず私はいいい方に繋がっていくと思います。ぜひとも協力してやっていきたいと思います。よろしくをお願いします。

#### ④対ロシアビジネスに関する連携について

○伊原木知事 次の項目は、対ロシアビジネスに関する連携についてということでございます。よろしくをお願いします。

○平井知事 伊原木知事と一緒にですね、モスクワの方に行きまして、日ロ知事会議をさせていただいたところではありますが、向こうは、政府を挙げての一大イベントでありまして、数多くの知事や経済界の方々が関わられたところでありまして、連邦上院の議長等ですね、大変にお世話になったことがございました。その時に伊原木知事がロシアとの交流というのもこれから考えていかなきゃいけないなという、お考えを示しておられました。

実は私どもは、ウラジオストクのあります沿海地方と姉妹提携させていただいておりますし、ハバロフスクさんとも交流の覚書ということをしております。日本海側だもんですから。

そういう海を隔てた、交流を古くから熱心に行っているところでありまして、現在、ビジネスサポートセンターをですね、ウラジオストクに設置をしています。海外事務所なんですけど、この海外事務所、単県ではもったいないもので、どこの県のことであっても使ってもらったらいいいというふうに考えております。現に今、実はこれ北海道とも関わってる組織になってまして、北海道の方も含めた物産を集めてDBSクルーズフェリーという船で韓国経由ですがロシアに直行できるという、そうした毎週通っている船があります。

これを活用してですね、現在はロシアの郵便局の各店舗に、日本の物産を置いて販売をします。郵便局のイメージが多分違ってて、若干コンビニ近い。（伊原木知事「あー（なるほど）。」）そういうロシアの郵便局は特性があつてですね、そこにこの日本に物資を送るときに例えばそうした様々な製品を集めていると。鳥取だけで集めるわけには当

然りませんので、全国から募集をしているというようなことで、まだまだこれ増やしていかなきゃいけないかなというのは、例えば、ございます。

それから、こちらの方でもうロシアの方でビジネスをされてる会社があるわけがございますし、そうした方々にですね、いろいろとロシアビジネスのことについても知っていただいて。また政府の方針として経済交流を盛んにしていこうという大方針もあり、そういう追い風も増えてますので、ぜひ岡山でもですね、セミナー等をさせていただいてもと思います。年末ぐらいまでにですね、そうしたロシア、ビジネスセミナーのようなことをさせていただいたり、あるいは私どもの海外事務所をですね、ご活用いただくというようなことで展開してはどうかと思っておりますので、よろしくご検討いただければと思います。

○伊原木知事 もう大変ありがたいご提案ありがとうございます。一緒にモスクワにご一緒させていただきまして、私にとって事実上、ロシアは初めてだったんですけども、いや、これ本当に、日本といろんな面で違うからこそ、お互いにとってメリットのある組み合わせ、ビジネスチャンスがあるに違いないっていうことは思ったんですけども、実際我々が、本当にモスクワに近いような、行くだけでもう10何時間、20何時間かかるようなところと姉妹提携を結んで、コストを上回るメリットが引き出せるかっていうとちょっと不安だと。どうせ組むんだったら、日本から、岡山から近い沿海州だったり、そういう場所だよなど。そしたら、沿海州と何か協定を結ぶかっていうことについても、将来結ばればいいのかもかもしれませんけれども、まだ実際何があるかわからない、どういうメリットやビジネスチャンスがあるのかわからないのに、固定費だけ払うことになるかもしれないっていうときに、すごく仲良くさせていただいているお隣の県が、もうすでにそういう関係があるってことでするので、これちょっと先ほどの移住未満だけれども、縁がないわけじゃないっていう、何かクレジットカードで言うファミリー会員みたいな感じで、私が正会員になるわけじゃないんですけども、お父さんが、会員だからちょっと私も少しその仲間として扱ってくださいねみたいな形で、ちょっとご紹介をいただけると、ずいぶんまた、そういう関係なしに行くよりも、お互いにとって、付き合いやすいんじゃないかなあっているふうにいるところがございます。

そのセミナーなんていうのは我々にとってすごく良い一歩だと思いますし、今の時点でまだ、「さあロシアに行ってどんどんビジネスを大きくするぞ」という会社があるわけではないんですけども、何回か紹介していくうちに、いろんな取組がでてくるに違い

ないと思っっているところがございます。どうぞよろしくお願ひしたいと思ひます。ありがとうございます。

#### ⑤少花粉スギ等の苗木による植替への促進について

○伊原木知事 それでは次の項目、少花粉スギ等の植替促進についてということでございます。これ、私かなり気合が入っておりますので、私の方から発言をさせていただきます。

とにかく岡山県民も含めて日本国民の2割から、もしかしたら3割の人が花粉症に悩まされてるということがあります。私自身はもともとビジネスマンですので、もう個人で対処できる、それぞれの会社で対処できることは、わざわざ税金使って公が乗り出さなくてもいいよね、ということも多く考えるんですけども、花粉に関しては、一個人でできることってというのは、もう本当に対処療法みたいなことしかできませんし、どっかの会社がどうこうしてっていうほどでもありません。これこそ、森、林を持たれてる地主の方々と協力しながら、林業関係の皆さんと協力しながら、発生源対策をしていかなきゃいけない。これも1年、2年でってことにはならないですけども、今ちゃんと初めて気がついてみると、ずいぶん抑えることができるようになってきた。具体的に言えば、スギについても、ヒノキについても、切った後で、わざわざ花粉がわしゃつと出る従来品種を植えると、また30年後40年後も、我々自身が、もしくは我々の子供たち、孫が花粉症で苦しめられることになるんですけども、今ありがたいことに、花粉がほとんど出ない品種がいろいろ開発されてますから、せっかく切って次植えるんだったら、他の性質をもうほとんど変わらないって言われている少花粉の苗木を植えることにしましょうってということで、それを地道にそれぞれの場所で繰り返していくと、すごく壮大な話ですけども、30年ぐらいたったら、もう何か景色が変わってるんじゃないか。我々の任期はもうそのときには終わってますし、もしかしたら我々の命も終わってるかもしれませんが、あの時に頑張っって始めたんだよね、ずいぶん春が楽しみになったよね、っていうふうにするってというのは、我々の大事な使命なのかなと思っっております。

そういうことで、岡山県、スギ・ヒノキの植え替を進めております。今、目標がスギ・ヒノキ苗木による植え替への割合90%以上とするという目標を掲げています。また、もう御案内のとおり花粉は全く県境無視して超えていきますので、もうイノシシ以上のスピードで超えていきますので、中国5県と一緒に取組をお願いしますということで、中国

地方知事会議において、スギ花粉症対策部会を設置させていただいて、みんなで進めております。これがスギをこれまで扱ってきたわけですがけれども、実際にはヒノキの花粉も、皆さん苦しんでいるということでございますので、スギ同様、ヒノキについても、これからみんなで取り組んでいきたいと考えているところでございます。よろしく願いいたします。

○平井知事 ありがとうございます。この会場のシロヤマテラスさんも素晴らしい木をふんだんに使った、ヒノキですかね美しい、そうした天井や飾りですね様々な木材が使われているわけですが、やっぱり中国山地の良いところはこういう豊かな緑があるところでもあります。ただ、逆にそれがですね、そうした花粉症等の課題を産んでいる。かつて一生懸命植林したことが、スギやヒノキがそうした効用ももたらしてしまったというようなこともあるのでありまして、今おっしゃったようにですねぜひ、少花粉あるいは無花粉こうしたスギ・ヒノキを増やしていければと思います。

これ正直申し上げて、岡山県はノウハウを育ててこられて、ぜひ教えていただきたいこともありますし、情報共有を図っていければということもでございます。私どもも色々と今試して5県でも頑張ろうということで、我々の県もやっているわけですが、スギについて挿し木ではなかなか発根率がなかなかいかないと。それで今そういう意味で採種園を作ってですね、何とかスギについては令和7年度、9万本という目標の供給をしようと思途を今立てつつあるところでございまして、徐々にではありますけど、少花粉の杉を増やしてきています。

また、少花粉のヒノキにつきましても、令和6年度から苗木の供給をする、そういうことにしようと3年前ぐらいから、そうした苗木生産に向けた地ならしといいますか、基盤作りをしているところでございます。

そういうように今進んでいるんですけども、ぜひですね、中国5県でせつかくチームリーダーに伊原木知事になっていただいでやっているところでございまして、今まで以上にそうした連携を図れないかなというのを、みんなで話し合ってみたいと思います。どうしてもこれ農水省の規制があつて県境をなかなか超えられない規制もあつて、本当であればですね、岡山県でだいぶ今、少花粉のスギ・ヒノキの生産も、大分動いてきているということでもありますから、そういうものも活用できたら手っ取り早いのもかもしれませんし、またいろいろとお知恵をいただきたいと思います。

○伊原木知事　ここで作ったものは、こっちに持って行けるけど、この線は越えられないとかがあるようでございまして、岡山県の場合は、岡山県の真ん中をその線が通っていて、県北で作ったものについては、鳥取県さんと相互融通ができるっていうことでありますので、もうぜひ我々とすれば、余分に作ってでも、融通できるエリアの皆さんとはもう一緒になって、少花粉スギ・ヒノキの普及に取り組んでいきたいなど。とにかく、新しく植えるときにはもうそれは少花粉もしくは無花粉にするんだっていうことを、早くあたり前にしたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いたします。ありがとうございます。

#### ⑥高速道路ネットワークの整備促進について

○伊原木知事　それでは、次の項目、高速道路ネットワークの整備促進についてでございます。平井知事の方から、よろしくお願いたします。

○平井知事　これも毎回お願をしておりますけれども、本当に一つ一つ前に進んでいることに大変な感謝を覚えているところでありまして、まずもって御礼申し上げたいと思います。

例えばこの近所で言いますと、姫路鳥取線という今鳥取自動車道がございしますが、このちょうど真ん中のところに西粟倉から鳥取県智頭に入るところが、志戸坂峠という峠道で、道路を昔作ったときに、両県にまたがるもんで直轄で実施をしたわけでありまして、お通りいただきますとここだけ高速道路仕様になってないわけですね。ですから対面通行でもポールを立てるわけでもございせんし、厄介なのはやはり西粟倉も智頭も雪が結構降るところでございまして。そういう意味で、鳥取県側で州詰（ほきづめ）橋っていう橋の辺りがちょっと傾斜が強うございまして、大きな車トラックやトレーラーがきますとそこで横になってしまうと全部問えてしまうという。これが毎冬繰り返されるということになっています。私どもも、国の方に要請もさせていただいたんですが、この度その志戸坂峠道路のバイパスとして、鳥取自動車道、新直轄方式で作ったところでありまして、これをまたもう1本トンネルを開けてやろうじゃないかという話になり、今年度、令和元年と着工事業化という運びになりました。本当に伊原木知事のご理解、ご協力に感謝を申し上げたいと思いますし、ぜひですねこれを早期に開設させることによりまして、山陽側と山陰側の交通の隘路をほどいていければと思います。

また、初和下長田道路など北条湯原道路と言われているところにつきましても、徐々に整備が進んできていまして、岡山県さんのお力に感謝を申し上げたいと思います。

私どもも今、山陰側では倉吉道路を延伸しているところであり、その後、倉吉関金の方に結んでいくというようにしているところでもあります。

また山陰自動車道がこの度正式に北条インターのところインターチェンジ化、JCT化することが決まりました。こちらの方も含めて今新しい動脈をですね、岡山鳥取間で今作ろうとしております。

伊原木知事に大変一緒に運動していただいた岡山米子線でございます。これも四車線化の安全安心計画に入りまして、この夏に非常に喜んだところでございます。これもせっかくの指定も受けたわけでもありますので、NEXCO西日本さんにも頑張ってもらって、それを我々も後押しをして四車線化を1日も早く、実現できるように取り組んでいければというふうに思います。どうぞよろしくお願い申し上げます。

○伊原木知事 いや、ありがとうございます。それぞれの地域の皆さんからすると切実な要望、これ国のものについては国にお願いしますし、我々の責任のものについてはそれぞれ優先順位を考えながら取り組んでいるわけでございます。そういうことで、初和下長田道路、これは今年度中に供用開始ができそうだっていうのは、本当に我々にとっても、嬉しいことであります。

正直一瞬、ちょっと考えて皆で相談をしたというのが、姫路鳥取線、姫鳥線であります。これは本当に岡山県はすっと掠ってるんですね。たまたま、そこをヒュッと掠ってるがゆえに、岡山県の都合で、鳥取県さんと兵庫県さんの仲を裂くみたいな形に、特に冬場に仲を裂くみたいな形になっておりまして、我々自身どれぐらい産業面でひどい目にあってるかっていうのを考えると、優先順位はどうなんだっていうことはあるんです。ただこれも両県にとって切実な問題であるところを、あんまり我々の都合を全部押し立てるっていうのは、これだけお世話になっていると、どうなんだっていうことで、我々としてもこれに協力しないのは信義に悖るだろうという結論に達しまして、相応の負担をさせていただきます。

あともう一つのおっしゃっていただきました4車線化。これお互いにとって良いことですし、お互いだけに限らない防災の縦の軸でありますので、本当に4車線化する方に分類をしていただけたっていうのは、本当に良かったなと思ってるんです。これからも、情報

交換しながら、お互いにとって、実際何が本当に切実なのか確かめ合いながら、それぞれ進めていきたいと思えます。どうぞよろしくお願いいたします。ありがとうございます。

#### ⑦インバウンドに向けたPR等の連携について

○伊原木知事 それでは、なかなか時間通り、順調に進んでいるところでございます。次の項目、インバウンドに向けたPR等の連携についてということでございます。私の方からお話をさせていただきたいと思えます。

インバウンド、これ本当にこんなに伸びている分野っていうのはめったにないわけでありまして、両県はこれまで協働して様々な観光プロモーションを実施してきたところがありますけれども、今個別に見てみると、政治情勢に左右されて今ちょっと厳しいですとか、いろいろあるわけなんです、例えばアジアっていうことで言えば、あれだけ人口がいるところがもう日本の昔の高度経済成長期のように急速に所得を向上させている。海外旅行なんてもう夢だった人たちが、中流になって海外旅行を始めている。そのすぐ近くに彼らにとって非常に興味のある日本っていうのがあるわけですし。もしくは、ヨーロッパ・アメリカの人にとって日本のバブルの頃、円が非常に高かった頃は、むちゃくちゃ何でも高いよと、つまらないよっていうのが、ずいぶんそういう方々にとっても来やすい、安全でエキゾチックだっていうことで、もう今評価が急上昇してますので、これも本当に我々としてもやりがいがあるなと思えているところでございます。

個別の話で、香港については、現在、米子鬼太郎空港と岡山桃太郎空港に週3往復で、同じ香港航空が就航していると。旅行者の9割が個人旅行、8割が訪日リピーターで、日本と同じ左側通行ということですので、これはもうレンタカーを使ってもらって周遊してもらうのがいいよね、っていうことでPRを行ってきたところでございます。

また、台湾やタイ、マレーシアも、次のターゲットっていうことで、台湾なんてもう次のターゲットところじゃないですけど、ものすごく今活況を呈しておりますけれども、取材ツアーを実施して、旅行会社や一般消費者向けの情報発信などを行っているところがありますけれども、遠くから来る人であればあるほど、それぞれの県の中にとどまることは少ないわけで、ある程度の広域で周遊していただく方が大半である実態を踏まえた、お客様の立場に立ったプロモーションをますます共同でやっていきたいと思えますので、どうぞよろしくお願いいたします。

○平井知事 ありがとうございます。まさにですね、このインバウンド観光は大分時代が変わってきて、ここ数年で急速に伸びてきました。岡山県さんも上半期だけで20万ぐらい宿泊があると伺ってしますし、我々も上半期10万ぐらいきまして、もう倍々ゲーム的に伸びてきているというところでもあります。

その中心をなすのが、今お話がありました香港とか、台湾でございます。ソウルはちょっと今いろんな諸情勢で厳しいところはありますけれども、ただそれを補うくらい需要はまだまだあると思います。しかも、いよいよ来年は東京オリンピック・パラリンピックでありまして、日本に対して目が向く時期でもあり、調査をしてみると東京のスタジアムの中に入れる人はわずかでありまして、その機会に日本を見て歩こうとかいうこともあるわけでありまして、東京の方は多分宿は満杯ですしレートは高いし、そういうときに、地方のですね、中国地方でもやっぱりそうしたチャンスを生かしていくべきじゃないかなと思います。また、2021年は関西ワールドマスタースゲームズというのが翌年にあり、これもオリンピックファミリーの大会ということになります。これもこの近辺で開催されてますし、2025年にはいよいよ万博ということにもなります。ですからまだまだ、日本売りが続くところでありまして、この機会にですね、ぜひ定着するような、リピーターになっていただくお客様を増やしたいなと思います。

岡山空港、そして鳥取側は例えば米子鬼太郎空港や、鳥取砂丘コナン空港というのがございますが、そうした空港というのをそれぞれ入り口にしていただいて、周遊するという観光をですね、ぜひ、増やしていければと思います。

台湾のお客様、今非常に本県も伸びてまして、岡山空港にタイガーエアで入られてこられる方が結構多いです。そういう意味でタイガーエアさんとの連携によるプロモーションとかですね、ぜひまた一緒にご検討いただけないかなと思いますし、香港航空はまさにそれぞれ路線を持ってまして。その中でお客様も分かれるわけです。今お話ありましたように、岡山の桃太郎空港が多分中国地方で一番レンタカーを使う数が多いんじゃないかなと思います。私どもで米子鬼太郎空港も、そういう中国5県の中比較的多いところでありまして、香港の個人客、FITの利用というのがやはり多くいらっしゃるということだと思います。そういうようなことを考えたり、あるいは、温泉だとか、さらには蒜山大山であるだとか、いろんな共通の周遊の素材が高速道路の沿線に結構ございますので、そういうターゲットをですね、いろいろと考えて共同したプロモーションもできないかなと思っております。これまでも、観光マップ作ったりしておりますが、例えば、香港の向こう側の深

センというところもですね、今交通の便が良くなりまして、香港と一体化してきましたし、人口圏は、香港に勝るとも劣らないところであります。そうしたところで今年ですね、向こうでの観光イベントもあるというふうに伺っておりますので、共同ですね、プロモーションするってこともあり得るんじゃないかなと思っておりますので、どうかご検討いただければと思います。

○伊原木知事 はい。ありがとうございます。深セン、私、2年ぐらい前でしたっけ。初めて行ったときに、もう自分の認識の甘さを痛感したところであります。香港の向こう側の工業地帯ぐらいにずっと思っていました。もともとはそうだったんでしょうけど。もう未来都市みたいな感じになってますよね。本当に中国のシリコンバレーって言われたらその通りかなっていうことで。我々マーケットがあるところはどんどん出かけて行って、プロモーションをやっていきたい。それも深センの皆さんに、「はい岡山だけ来てくださいよ」っていても「そんな点みたいなのところに行くんですか」みたいなことですから、深センの方が回りたいぐらいの広さの皆さんと協力して、やっていきたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。ありがとうございます。

#### ⑧PR事項

○伊原木知事 それでは、その他PR事項ということで、これもまずすいません、私の方からさせていただきます。

岡山県はフルーツが強みっていうことで、果物時間っていうキャンペーンを行っているんです。これ、去年もやったんですけれども、水害でほとんど流れてしましまして。今年はそのリベンジということでございます。フルーツもそうなんですけど、今年には3年に1回のアートの年ということでもありますので、瀬戸芸があります、芸術交流があります、そして、平井知事にご覧いただきました美作三湯芸術温度、これがもう始まって来年の1月13日まで続いているところでございます。ぜひそういったものを組み合わせて、皆さんに楽しんでいただきたいなと思っています。なかなかアートを使って、街中を周遊してもらおう。だいたい我々が慣れてるのは、何かおっきな美術館に行って、そこで芸術作品を見るっていうことなんで、この瀬戸芸もそうですし、岡山芸術交流もそうですし、芸術温度も大抵は屋内にあるんですけれども、出入り自由にしてるものですから、本当に「アートが街に出た。」っていうよくそういう表現がありますけど、まさにそれを実践しているよ

うなことでありまして。この不思議な体験をできるだけ多くの方に味わっていただきたい  
と思います。どうぞよろしく申し上げます。

○平井知事 はい、ありがとうございます。本当にあの伊原木知事に大変なご差配をい  
ただきまして、奥津温泉の方で芸術温度、こちらの方も拝見させていただきまして非常に  
楽しい、そしてワクワクするような時間を体験させていただきました。

昨年ちょっとあれだったんですけど、果物時間もね。ぜひですね今年も、私どもも  
応援させていただいて、両県でなんだったら県の広報誌だとかで共同ですね、それぞれ  
に情報発信もしたらいいんじゃないかなというふうに思います。

私どもは実は今蟹取県というキャンペーンをやってるんですが、これも去年これは災  
害ではないんですがカニを取りすぎてカニがいなくなってしまったという、そういうのが  
ちょっとございまして、それで非常にちょっとなんだかなという年ではあったんですが今  
年は取り過ぎないように調整をしながら取ろうという談合が成立しまして、そういうわけ  
でこれからですねまた始まってまいりますので、ぜひまた今年度いっぱい楽しんでいただ  
ければと思いますし、新しいお米、星空舞というのを作りましたり、また和牛この辺は今  
東京の方でも大分人気も出てきておるところでございまして。ぜひ食べにまた来ていただ  
ければというふうに思うわけでございまして。

ここ津山というのは、西東三鬼先生が出たところでもございまして。ちょうど今台風の  
北風がですね吹き始める、そんなことになってくるわけでありまして、「北風に牛角を低  
くして進む」という句がございまして。我々一緒にですね、これからどんなことにも立ち向  
かっていく。そんな岡山・鳥取両県のパートナーシップを作ってまいりたいと思いますの  
で、よろしくお願いを申し上げたいと思います。本日本当にすいません。ありがとうございます  
でした。

○伊原木知事 ありがとうございます。岡山と鳥取の絆を改めて確認をしたところござ  
いまして。来年は聖火ランナーが岡山でぐるぐると2日間にわたって170人が、リレーをし  
て、そちらの方にその170人分をさらに上積みしてからお渡しする予定になっております  
ので、またよろしく申し上げます。本当に、今回もどうもありがとうございます。

○平井知事 どうもありがとうございます。